

より有効な 情報化社会を つくるために

情報通信技術と私たちの生活

パソコンやスマートフォン、インターネットなどのICT(Information & Communication Technology: 情報通信技術)が進化し、さまざまな情報システムや情報サービスが提供されて私たちの生活は劇的に便利になりました。いつでもどこでもネットを介して日本だけでなく世界中のお店でショッピングし、旅行を手配し、支払いも済ませることができます。大学の授業だってタブレットがあればどこでも受けることができます。

こうした技術の普及によって、お店に出向いて買い物をしたり、旅行代理店に出向いて契約したり、キャンパ

高井 才明

Toshiaki Takai

【研究テーマ】

ビジネス情報システムの研究



スへ通学して授業を受けたりといった以前からの日常生活が、単にネットでできるようになったというだけでなく、これまでにない新しいサービスが生まれたり、ビジネスの仕方や仕組み自体が変化したり、社会の制度や法律が刷新されたりしています。何よりも私たちの生活スタイルや価値観まで変えつつあります。そして、さらに新しい技術が求められ、技術が進歩していきます。

こうした現象は、たとえば、車が普及したことによって、私たちの行動範囲や物の流通が広がり、街づくりが変わり、道路交通法が作られたように、技術全般に当てはまるかもしれません。しかし、ICTは、情報を扱う活動のすべてにさまざまな形で応用できる技術ですから、その広がりや他技術とは比べものにならないでしょう。

情報化時代に対応した経済・ビジネスシステム

とりわけ、ICTは経済やビジネスにおいて大きな変化をもたらしました。企業は、インターネットによる世界的な情報通信網とグローバルな経営環境の中で、熾烈な競争にさらされることになりました。国を越えてリアルタイムに影響しあい、企業競争を激化させています。そうした環境の中で生き抜くためには、いかに的確に変化をとらえ、情報を分析し、スピーディーな意思決定を行うか、そしてそれをビジネスや経済活動に反映させて競争優位を図るかが重要となります。それには、もはや従来の組織や意思決定の仕方では追いつきません。情報分



析や意思決定を支援する情報システムと、それに対応した組織や経済・ビジネスシステムの再構築、進化が求められます。

有効な情報社会をつくるために

ただし、情報システムを作りさえすれば必ず便利になるというわけではありません。システムの作り方が悪ければ、逆に不便で誰も使わないものが出てしまうことだってあります。たとえば、ある調査によれば、これまで我が国の企業で行われてきた情報化投資の50%は活用されていない、いわば不良資産となってきたとされています。また、システムが悪用されて犯罪や事件が起ることもあります。

もちろん、だからといって情報化を止めることが良いということでもありませんし、せっかく便利に使っているものを止める手はありません。これまでの経験も活かして計画的に工夫を凝らしていくことが重要なのです。今後、私たちの社会や経済において、有効に情報化を進めていくために、次のような問題を考えていかなければなりません。

- 今後どのような情報システムや情報サービスが必要となるのか
- それにはどんな技術が求められるのか
- 新しい情報システムや情報サービスに対応した制度や仕組み、組織をいかに作るか
- それらが私たちの社会や生活にどのような影響をも

たらずのか

これらの問題は、情報技術や通信技術の専門家やエンジニアだけに任せておけばいい問題ではありません。日常生活で情報サービスを受ける私たちユーザや、経済学部で学び経済やビジネスの知識と感覚を持ち、経済・ビジネスの現場で情報システムを活用していく人こそが率先して考えていかなければならない問題だといえます。試行錯誤して新しい技術を生み出すのと同じように、新しい技術に対応した社会づくりも試行錯誤して生み出していかなければならないと考えます。

そうした情報化経済・社会に対応した知識と感覚を身につけていただくために、同志社大学の経済学部ではわが国の経済系の学部の中でも屈指の情報系のカリキュラムを提供しています。

